



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

ウィズ コロナ時代の生活習慣病対策

内科クリニック 診療科長・教授 木庭 新治

新型コロナウイルス感染症が2019年12月に中国武漢で初めて確認されてから3年が経ちます。2020年3月WHOによるパンデミック宣言以来、全世界に拡大した感染の波は現在第8波です。コロナウイルスはRNAウイルスで、変異する速度が速く、毒性を低下しながらも、高い感染力を有するウイルスとして変遷を遂げています。新型コロナウイルス感染症に対する行動制限により生活様式は変わりました。「テレワーク」「リモートワーク」「在宅勤務」という、新たな職形態が増加しました。満員電車などの通勤での精神的ストレスが減った一方、通勤という物理的移動がなくなり、座りっぱなしの姿勢が恒常化し、運動不足が懸念されます。感染対策の都市封鎖実施前後での身体活動を測定した173試験、約32万人を対象としたメタ解析では、「ロックダウン」により身体活動の有意な減少と座位時間の有意な増加が示されました。

英語の「sit」を意味するラテン語の「sedere」に由来する「sedentary behav-

ior（座位行動）」の時間の増加は、糖尿病、脳心血管病、がんの発症および総死亡の独立した危険因子です。活動強度とその時間を加速度計で計測した欧米の前向きコホート研究のメタ解析では、座位行動時間が長いほど総死亡リスクは増加し、強度にかかわらず、身体活動の時間が長いほど死亡リスクは低下しました。

近年さまざまな身体情報をモニタリングするウェアラブル端末が進歩し、日々の健康状態が記録できます。歩数計などのデバイスを装着すると身体活動量が増加することが生活習慣病のリスクを有する成人を対象としたランダム化比較試験34研究のメタ解析で示されました。スマートウォッチやスマートフォンなどで身体活動をモニタリングし、長時間の座位行動継続を避けてこまめに中断することで生活習慣病の予防がえられます。



- P1 巻頭言 ウィズ コロナ時代の生活習慣病対策
- P2 診療科紹介 内科クリニック
- P3 歯科診療トピック 口腔機能リハビリテーション科
- P4 全国アビリンピックで受賞、診察券番号統合について
編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、 ■ 医療機関向け、 ■ お知らせなど

診療科紹介：内科クリニック

内科クリニック 診療科長・教授 木庭 新治

歯科病院における唯一の医科診療科として2016年4月開設しました。歯科各診療部門と連携し、処置前・術前後の内科管理や歯科診療時に気づいた未治療のさまざまな疾患に対する診断および治療をプライマリケア重視の下行っています。

循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患、老年疾患、糖尿病・内分泌代謝疾患に精通した医師が専門領域に限らず内科全般の診療を行っています。また、心電図、脈波検査、体液量検査、ホルター心電図検査およびCT検査は常時実施しています。

内科クリニックでは、昭和大学病院各診療科と連携し、超音波検査（頸動脈、甲状腺、心臓および腹部）、放射線検査（CT、MRI、核医学、骨密度計測）、消化管内視鏡などの検査を直接受けられる体制が整備されています。

増加している高齢者においては、フレイル・オーラルフレイルに着目し、当院高齢者歯科と連携し、口腔機能低下症の早期発見に努めています。体内終末糖化産物測定器（写真）を用いて体内に溜め込んでいる不可逆性の糖化・酸化物を測定しています。

EIM (Exercise is Medicine)とはアメリカスポーツ医学会が2007年から展開する運動

療法普及活動です。EIMとは、運動は医薬であり、医術です。高齢者こそ身体活動の増加が重要であり、当クリニックでは運動および身体活動の促進を積極的に指導しています。

睡眠時無呼吸症候群(SAS)は高血圧、不整脈、心不全、糖尿病、脳血管障害と密接に関連しており、当クリニックではSASの診断と治療に積極的に取り組んでいます。在宅での睡眠簡易検査やポリソムノグラフィー(PSG)または昭和大学病院附属東病院睡眠医療センターでの1泊入院PSG検査を実施し、当院睡眠歯科外来とは相互連携しております。歯科診療時の血圧高値から、SASの診断に至る症例が多いです。

禁煙治療、重症気管支喘息に対する生物学的製剤の投与やアレルギー免疫療法（舌下免疫療法）、慢性呼吸不全や慢性心不全に対する在宅酸素療法を行なっています。

予防医学を重視し、インフルエンザ、肺炎球菌、带状疱疹などに対するワクチン接種を行なっています。大田区の公費のワクチン接種にも対応しております。

歯科診療中の患者さんで、全身の評価が必要な際には、いつでも診療いたします。



写真 体内終末糖化産物測定器



内科クリニックスタッフ

歯科診療トピック 口腔機能リハビリテーション科

口腔機能リハビリテーション科 助教（歯科） 林 皓太

～訪問歯科診療について～

当科では、飲み込みに問題を抱え、通院が困難な患者さんに対し訪問診療を行っています。近年、訪問診療の依頼が増加しています。増加している要因として考えられることは、コロナ禍で外出せず家で過ごすことが増えたことで、筋力の低下や認知機能の低下が進行した場合や、これまでリハビリで通院されていた方が通院できなくなったことにより、訪問診療に切り替えるなどがあります。

当科の訪問診療はご自宅・入院中の病院・入居中の施設に歯科医師2名～3名でお伺いし、口の中の状態や舌の動き・筋力、首の動き、喉の動きをさまざまな装置（写真1）を持参して機能検査を行い、食事に関するさまざまな指導を行っています。

また、再検査が必要な患者さん、重度な摂食嚥下障害の患者さんに対し嚥下内視鏡検査（VE検査）（写真2）を行っています。VE検査では鼻から内視鏡カメラを挿入し、喉の状態を直接観察し、実際に食事をしていただいて食べ物が飲み込んでいるのかの確認を行い

ます。検査結果から、上手に飲み込めていない場合はどこに問題があるのか、どうすれば飲めるようになるのかを検討しています。

その後、患者さんに適した指導を行い、訓練の必要があれば訓練方法をお伝えし、ご自身またはご家族の方に日々実践していただきます。定期的に再訪問し再評価を行い、その度、指導、訓練を行っています。

必要があれば、入れ歯の作製や、むし歯の治療もおこなっています。限られたスペース・時間・器具でコンパクトな診療を心がけています。

飲み込みが気になる方で、当院への通院困難になった方は、一度口腔機能リハビリテーション科にご連絡ください。



写真1 嚥下機能評価に用いる器具



写真2 VE検査風景



口腔機能リハビリテーション科 スタッフ

【第42回全国アビリンピック(全国障害者競技大会)】で受賞しました 歯科技工室

当院、歯科技工室の宇都宮真一が11/4～11/6に幕張メッセを主会場として行われた全国アビリンピック大会の歯科技工競技において銀賞を受賞しました。

アビリンピックとは心身のハンディを乗り越えたスポーツの祭典パラリンピックの職業技能版と云え、喫茶サービスやフラワーアレンジメントなど様々な職種(全25種)があり障害者手帳の交付受けている者で各都道府県知事の推薦を受けた者が日ごろ職場などで培った技能を競う大会です。

歯科技工競技課題はパソコンを駆使しデジタルで課題歯牙の前歯と奥歯の2本をデザイン

するもので、宇都宮技工士は緊張した面持ちの中でも日ごろの実力を遺憾なく発揮し、そのデザイン性が高く評価され同賞に選定されました。



競技中の風景



銀賞の宇都宮技工士

診察券番号統合について

事務課医事係 係長 村木 大佑

令和5年1月1日より、昭和大学歯科病院の診察券番号が昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院と統一され、新しくなります。

現在、当院で発行されている「診察券」は令和5年1月1日以降使用できません。

右記 ①、②にて対応させていただきますので患者さんには、大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

①昭和大学病院・東病院の診察券をお持ちの方⇒昭和大学病院・東病院の診察券をご使用ください。

②昭和大学病院・東病院の診察券をお持ちでない方⇒新しい番号の診察券を配布いたします。



【(新) 昭和大学歯科病院 診察券】

編集後記

寒さも本格的になってきました。年の瀬も迫り何かとご多用のことと存じますが、皆様におかれましては、体調を崩されませんようご注意ください。

末筆ながら、一層のご隆盛を衷心よりお祈り申し上げます。(K.A)

